

「ふるさと半田を守り育てる」長期プロジェクト

～ 平成 18 年度の取り組み ～

徳島県美馬郡つるぎ町立半田中学校



<はじめに>

本校は県西部にあり、吉野川南岸に位置し、四方を山々に囲まれた小さな盆地の町は、古くから急傾斜地崩壊危険地域に指定されていた。また、本校の建つ田井地区の斜面には、保水力のない針葉樹などが生い茂り、大雨時には、崖崩れ等の土砂災害が発生する危険性が高く、効率のよい早急な防災工事が必要であると言われている。



<経緯>

平成 16 年度より徳島県が行う「地域の連携による自然再生型防災事業（山腹崩壊対策事業）」計画に賛同し、「高い安全性を持つ整備」「人と自然との共生」「参加と協同による地域防災づくり」の基本理念に基づき、「ふるさと半田を守り育てる」という長期プロジェクトを立ち上げた。

16 年度、(現 3 年生は)自然の森にふれ合い、体験学習の中で田井の森を「ケンヂの森」と命名し、災害に強く人や動植物等にやさしい理想の防災林にする計画を立てた。

17 年度、(現 2 年生は)前年の取り組みである「災害に強い自然の森づくり」



を確認する中で、平成16年10月の台風23号による半田川の大氾濫による家屋の浸水被害や土砂崩れによる大災害の爪痕を目の当たりにした。そこで、なぜこのようなことが起きたのか、どうすれば防ぐことができるのか等を調査・聞き取りを行い、「半田の森と危険箇所」をモデル化した。



さらに、登下校時の道路等の危険箇所や危険性が潜む地域と危険のサインを調査し、「半中版ハザードマップ」を制作し、だれもが安全にそして安心して暮らせる町に



してほしいことを、県土整備部へお願いした。また、子どもたちからは今世紀初めには必ず起こると言われる「東南海沖地震」に備え、防災カルタ・防災グッズの制作や準備、避難時の連絡方法や避難食など、地域と連携した学習を進めたいという意見が出てきた。このことが、2年生44名を中心とした18年度の防災学習と地域の防災啓発活動へと発展していった。

< 学習活動設定 >

	自然環境と自然災害	地域の防災	「ケンヂの森」の植樹と発表
現3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の森にふれた体験学習 ・災害に強い自然の森づくり 		理想の防災森林計画と植樹
現2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い自然の森づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 半田の森と危険箇所 半中版ハザードマップ 防災カルタ 防災パンフ・マグネット 防災避難訓練 親子ふれあい体験学習 	植樹
現1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・森と川と生き物とのつながり 		植樹

< 本年度の取り組み >

- 1 テーマ 「安全・安心に暮らせるまちづくり」
- 2 課題

- ・これまでに学習した「半中版ハザードマップ」や危険箇所模型、緊急避難場所等を地域の人々に知らせ、防災への啓発啓蒙を進めながらボランティア意識の向上を図る。
- ・環境保全の必要性の学習を深め、全校生徒による「ザ・ツリーワールド（体験学習エリア）」の植樹と災害に強い「ケンヂの森（田井の森の総称）」を維持観察することで、ふるさと半田を守り育てる。

3 防災学習年間計画案

実施時期	事業内容
5 月	「半田中学校版防災マップ」(アクリル看板)作り 「地域別防災マップ」(アクリル看板)作り
6 月	看板立て 「地域別防災マップ」の配布と学習会 マップの説明 地域別連絡網作成への働きかけ 聞き取り調査(現状把握)
7 月	「防災グッズ」「防災カルタ」「防災すごろく」作り
8 月	体験学習(避難訓練) 避難食, 炊き出し, テント張り等
9 月	地域啓発への拡大(職場体験, 文化祭)
10 月	親子体験学習(防災センター訪問)
11~12月	「ケンヂの森(ザ・ツリーワールド)」への植樹
1~2月	学習のまとめ

4 活動の実際

(1)オリエンテーション・防災シュレシヨソゲム

徳島大学環境防災センター黒崎先生を講師に迎え、災害と防災そしてボランティア活動について学習する。さらにゲームを通して防災意識とこれからの学習への意欲を高める。



(2)啓発活動・内容の決定

地域への防災啓発活動に重点を置くことを共通課題として、啓発内容と活動内容を話し合う。

看板(「半中版ハザードマップ」の利用)を立てる。
防災カルタ(「半田の昔話」を想起)を作る。
防災パンフレットとマグネット(「危険のサイン」入り)を作る。

*()は昨年度の学習で制作したもの

防災避難訓練の実施
「ケンヂの森」植樹祭参加
徳島県立防災センター訪問(親子ふれあい学習)



(3)役割分担と内容

看板班(13人)

校区内地域別(盆地内・坂外・八千代)ハザードマップをパネル制作し、各地域に設置。町発行の広報紙「つるぎ」で地域住民に設置場所を募り、町役場半田支所・町立半田病院・八千代診療所に決定。町当局の快諾後、7月19日各玄関に掲げることができた。地域の方からは「中学生が発信したことがすばらしく、



この取り組みは必ず行政や地域に広がるだろう。わたしたちもこの取り組みを無駄にせず、防災意識の向上を図り、いざというときには、自分の命を守れるようにしたい。」と意見をいただく。

防災カルタ班(22人)

「あ」から「わ」の各4枚の絵札・読み札のカルタを5班で分担。幼児から高齢者にまでわかるような「ことばと絵」「用紙と大きさ」を考え4つ切りの厚紙で作成。文化祭で防災カルタ取り大会を実施し、校内・保護者・地域へ啓発。カルタが大きく、言葉も絵も楽しく、大勢の参加者でにぎわい、その姿に防災意識の高まりを感じることができた。幼稚園・小学校・老人会等でも使ってほしい。



防災パンフレット班(6人)とマグネット班(3人)

3種類(危険サイン・避難場所・避難グッズ)のパンフレットを作り、半田全戸に配布。模式化した危険のサイン等(18種類)をマグネットに貼り、半田全戸に配布。パソコンを使っての作業は相当難しかったようだが、資料提供と技術支援を受け完成。瞬時にわかるようデザインや紙面構成の工夫を試み、2400枚作成し、町当局に依頼して全戸(2100戸)への配布を8月末に完了できた。模式化した危険のサインを、マグネットに貼り付ける作業には手間と時間を費やしたが、各家庭の冷蔵庫等に貼って役立ててくれていることを聞くと、その苦労は喜びに変わった。



(4) 防災避難訓練

ア 目標 普段あまり意識していないであろう災害について、保護者や地域の方に災害時の避難行動について考え気づいてもらう。

イ テーマ 「大規模災害を想定した避難生活体験～互いに助け合って、避難場所までたどり着いた後の生活は？避難者となって体験し、いざというときに役立てよう～」

ウ 実施日 平成18年8月27日(日) 午前8時～午後2時 雨天決行

エ 想定災害 「地震、大雨による日光神社裏山の大規模土砂災害」

オ 活動内容 災害発生後の避難活動および避難生活体験

カ 避難場所 半田中学校グラウンド

キ 参加者 半中2年生・保護者・地域住民・教職員

ク 支援者 警察署・消防署・学校医・県教育委員会・町教育委員会・県西部総合県民局・教職員OB・エコ建設コンサルタント等 (参加者は112名)

ケ プログラム

8:45 ~ 9:00	受付
9:05 ~ 9:20	オリエンテーション
9:40 ~	災害発生発表(各班の移動開始) 避難シミュレーションゲーム 煙体験 消火訓練 人命救助訓練(人工呼吸・AED)
11:40 ~	昼食(炊き出し)
12:10 ~	お風呂体験
12:45 ~	閉会式



コ 組織と当日の役割

対策本部

避難者班

- 健常者（補助）、高齢者、幼児、身障者、負傷者、外国人等
- 避難シミュレーションゲームに参加する。
- トリアージリボンをつけてもらい、誘導者の指示に従う。
- 互いに助け合い、健常者（中学生）は地域の方の力になること

避難誘導班

- 集団で避難する場合、噂やデマに惑わされることが最も恐ろしいことを念頭に置く。
- 所定場所に立ち、大きな声で避難ルートや避難場所の指示を的確に行う。
- 指示に従い、避難所まで迅速かつ安全に誘導する。
- 避難者に寄り添い、励ましの言葉をかけながらお世話する。

衛生救護班

- 災害現場に急行し、負傷者のトリアージ（選別）を的確に行う。
- 重傷者を車椅子や担架を使い、診療所（医療機関）に搬送する。
- 負傷者の手当の補助を行う。
- 負傷者の心のケアにも努める。

避難所運営・生活班

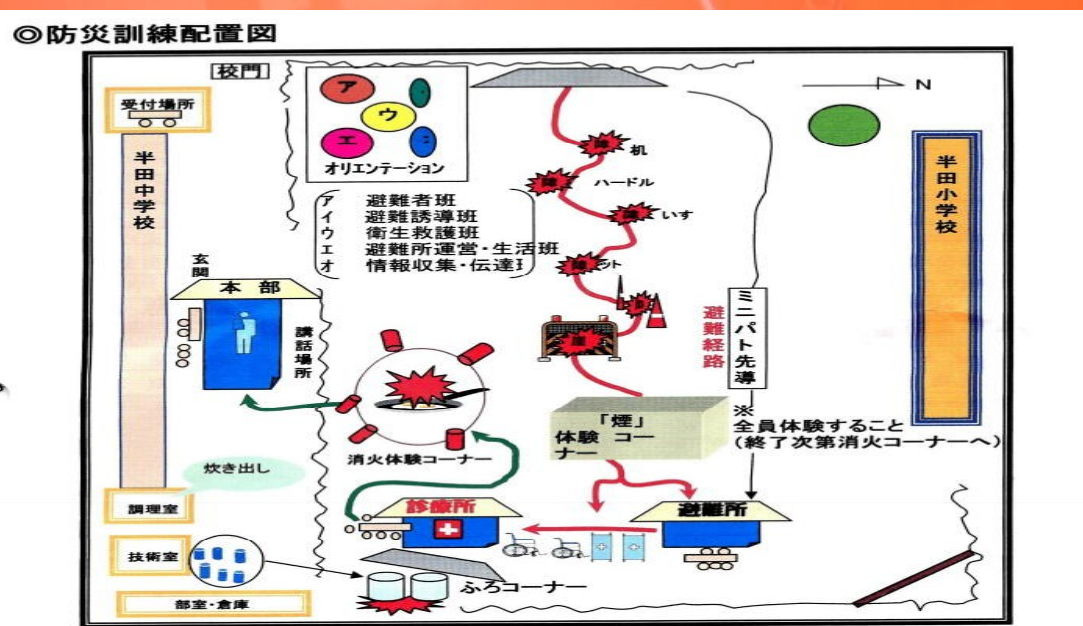
- 避難者緊急連絡カード（カルテ）と避難者リストを作成する。
- 避難場所、避難者数など被害状況を正確に把握する。
- 炊き出し、飲料水の確保
- 食料品や救援物資の受け入れと配給
- ドラム缶風呂の準備
- （避難者の精神的なやすらぎと肉体的疲労の改善を期待）

報収集・伝達班

- 情報を正確かつ迅速に伝える。
- 地域の被害や避難状況を対策本部に報告する。
- 被害状況、避難生活等を記録に残し、今後の教訓とする。

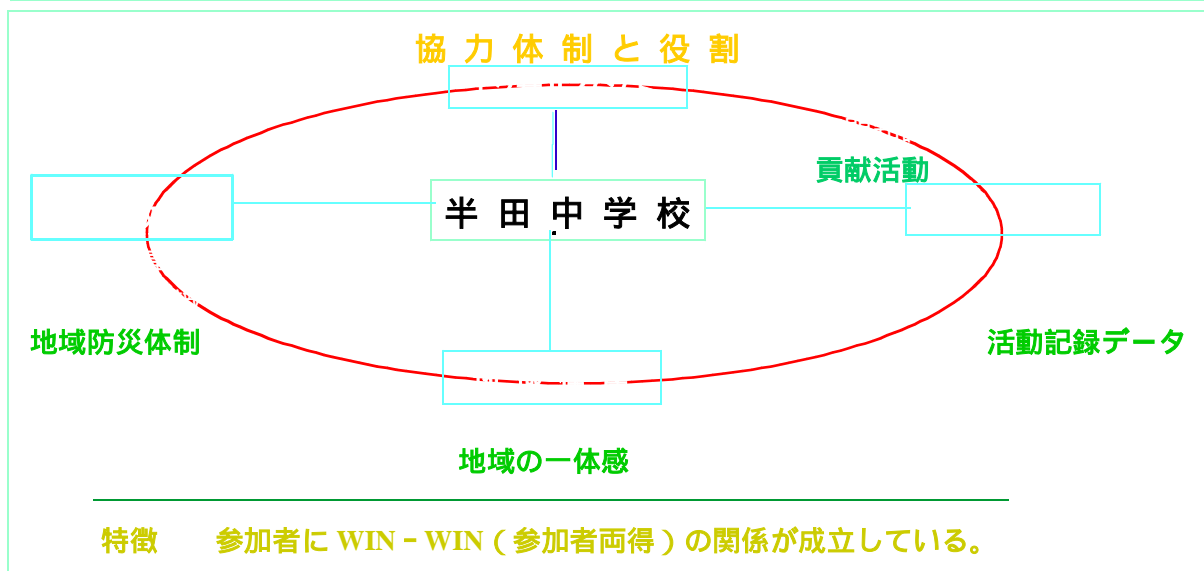


サ 防災訓練用具等配置図



保護者・支援者への依頼と計画に従っての事前準備は夏休みの部活動終了後の時間を使った。真夏の大変暑い日の、幼児から90才に近い高齢者が参加した訓練は、暑さ以上に防災訓練の大切さや必要性に気づいてもらった。また、当日参加できなかった方には、いつ起こるか予測できない災害から自他の命を守るための防災知識や訓練の大切さを文化祭で発表することで地域の防災意識の向上を啓発した。自分たちの学習や願いが地域に伝わるとともに、地域の方たちの温かい支援と協力を実感できた訓練だったと確信できた。

「防災訓練」を通じ、期待できるポイント



(5) 「ケンヂの森」植樹祭参加

平成18年11月26日 現3年生が自然の森の生態を調査して設計した「ケンヂの森」への記念植樹を行った。設計図を基に地域住民・支援者・保護者等240人とともに、アラカシやクヌギなど約2000本の苗木を植え、雨にも風にも負けない災害に強い理想の森を誕生させた。



(6) 徳島県立防災センター訪問(親子ふれあい学習)

平成18年12月20日これまでの学習をより確かなものとするため、親子でセンターを訪問。地震・風・煙・消火体験等を通して災害に対する知識や防災への準備や行動を再確認するとともに、自分たち中学生が地域の防災リーダーになり、さらに防災意識を高めることを自覚することができた。



5 成 果

- ・「安全・安心に暮らせるまちづくり」は、地域住民の防災意識を喚起させる機会となった。

ここ数年、私たちの町は大型台風による川の大氾濫で、家屋の浸水や倒壊、また大雨による土砂災害で大きな被害を受けた。災害の恐怖を体験した子どもたちの思いを重ねた「危険箇所の模型づくりや半中版ハザードマップ」。そして、今年度の地域への啓発活動を課題とした取り組みは、大きな成果（防災意識の向上）を上げることができた。さらに公的機関ロビー等に掲示された「地区別ハザードマップ」は行政に先駆けて実施したため注目された。「防災パンフレット」は各家庭の冷蔵庫等に「危険のサイン入りマグネット」で貼られるなど、地域住民が防災を身近なものとしてとらえられるようになった。

- ・行政や専門家等の支援や協力は、正しい知識と行動を身につけることができる。

県内企業・町役場および支所・県西部総合県民局・県教育委員会・徳大環境防災センター・消防署・警察署・新聞社等、数多くの専門家の支援と協力があった実現した取り組みであり、今を生きる上で必要不可欠な学習であることを自覚できた。

- ・地域と学校との連携は、自然と生命を守り育てようとする心やさしい子どもを育成する。

「災害に強い自然の森づくり」から「地域の危険箇所」そして「安全・安心に暮らせるまちづくり」へと進めてきた「ふるさとを守り育てる」長期プロジェクト。この学習に取り組んで3年、自然や人とふれあう中で、子どもたちは地域の方々が自分たちをやさしく見守り育ててくれていることを実感し、互いに協力して行動することのすばらしさを学ぶことができた。

6 今後の取り組み

- ・「ケンヂの森」を守り育てる。

ふるさと半田を守り、災害に強い森に育つための「除草作業」(年2回実施)

- ・継続した防災学習と地域啓発

自他の命を守るためには常に防災意識を持っていることが大切であることはだれもが知っている。しかし、いざというときなかなか身体は動いてくれない。そのことを各自が自覚し、どんな場合でも落ち着いて安全な行動がとれるようにするための学習を地域と連携して行いたいと考えている。(地域の実態に応じた保育所・幼稚園・小学校・地域合同避難訓練、意識調査、「防災カルタ取り」、「お元気ですかカード」を利用しての高齢者との交流等)

- ・我が家の防災教育

子どもたちが防災リーダーとなり、家族の防災意識を高める。

(我が家の防災マップと連絡網・個人カルテの作成・「非常持出品と非常備蓄品」の準備等)

わたしたちの役割は、災害への対応・災害への備えを個人から家族、学校から地域に広げていくことであり、これからも地域と一体になり、常に防災を意識した生活が送れるような学習に取り組んでいきたい。

